

「再生可能エネルギー拡大の見通し」

電力小売全面自由化をチャンスにするために

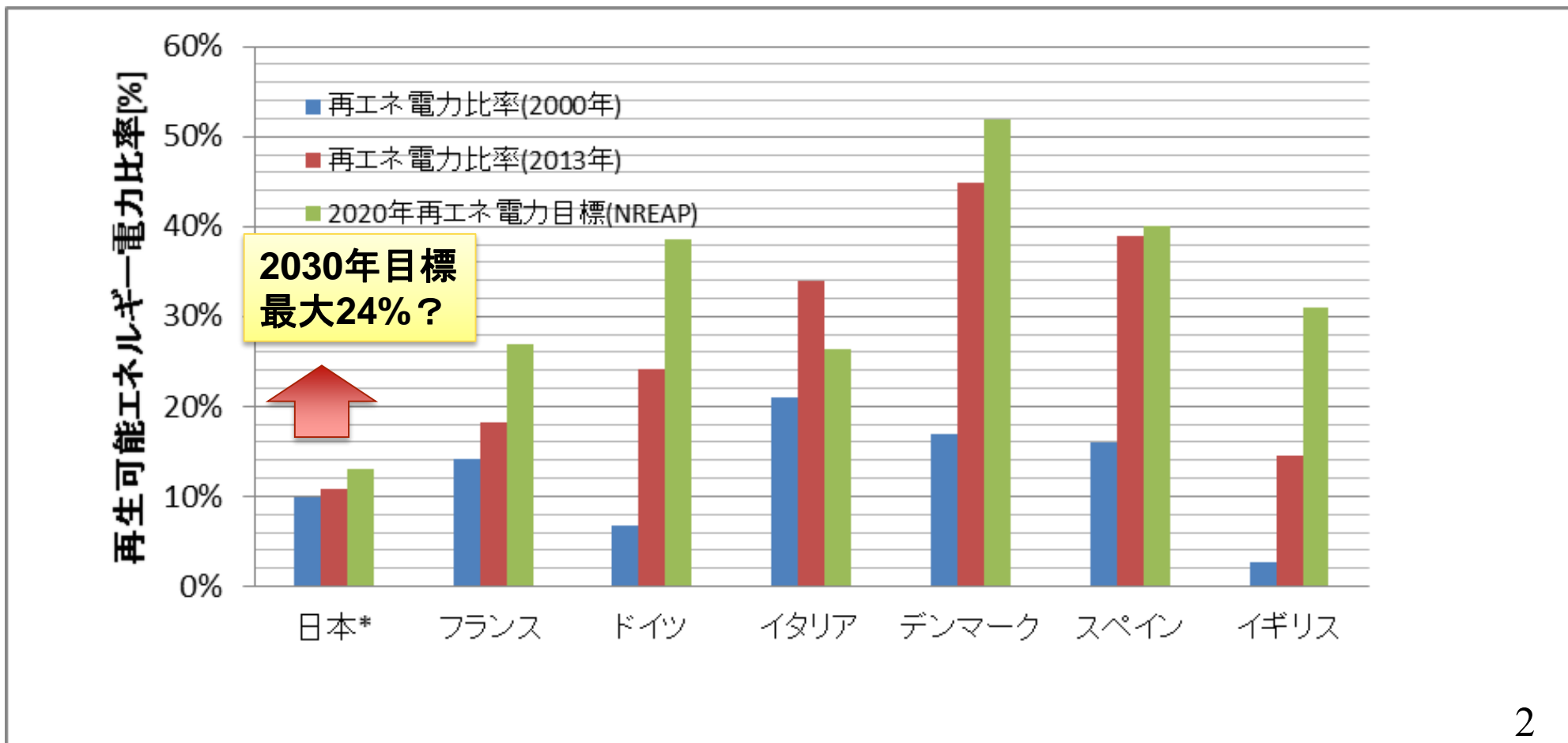
認定NPO法人 環境エネルギー政策研究所

2016年1月27日

再生可能エネルギーの導入目標

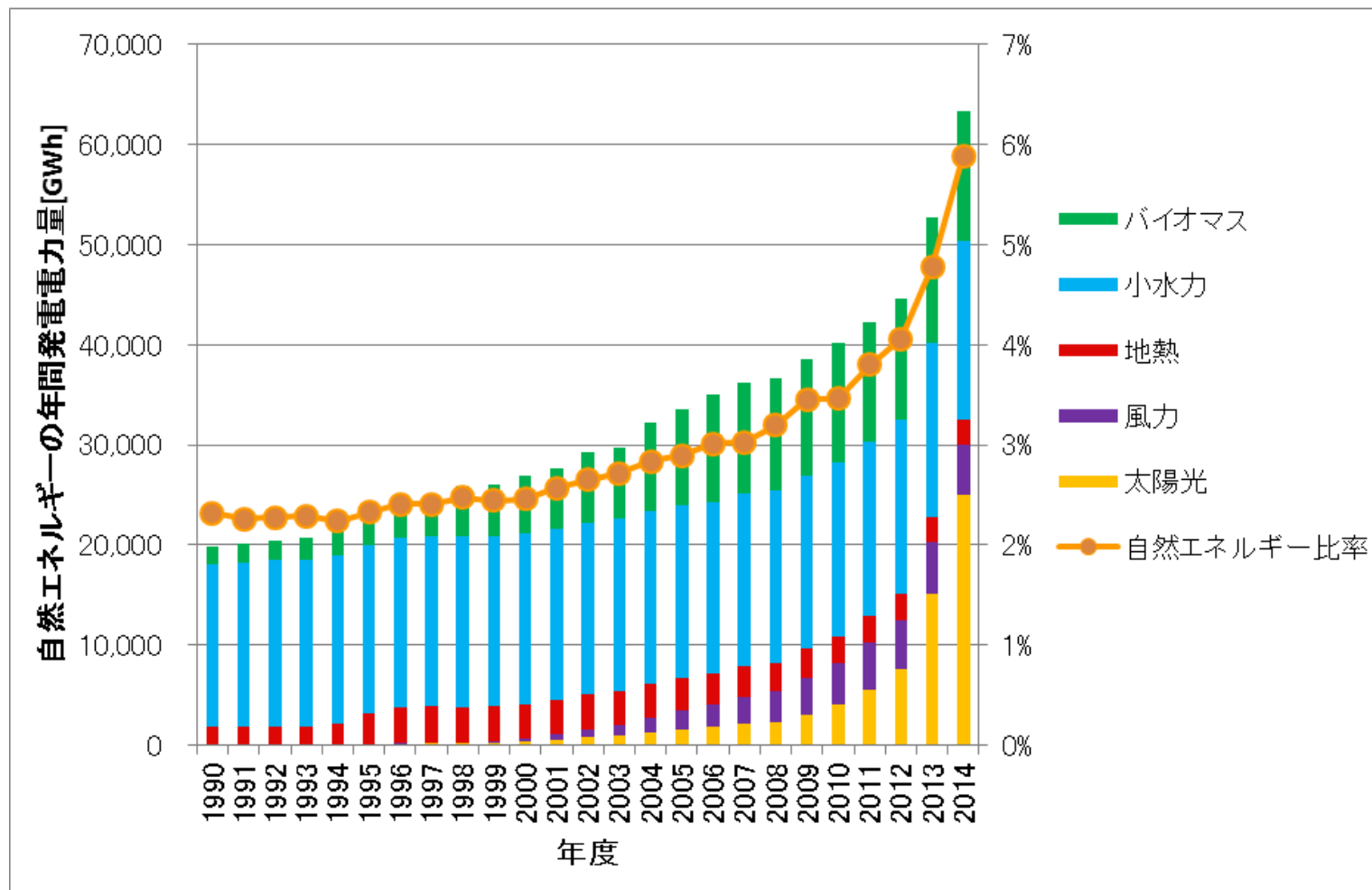
欧州では意欲的な目標を各国で掲げて導入が進んでいる

- 主な欧州各国の自然エネルギー導入比率はすでに20%以上に。
- 主な欧州各国の自然エネルギーの2020年時点の導入目標は30%以上
- 日本でも2030年の導入目標は40%以上に (ドイツは50%)



日本国内の自然エネルギーによる発電量の推移

- 自然エネルギー(大規模水力以外)による発電量は、国内全体の約6%(2014年度)
- 2012年以降は太陽光による発電量が急増している。



エネルギー永続地帯

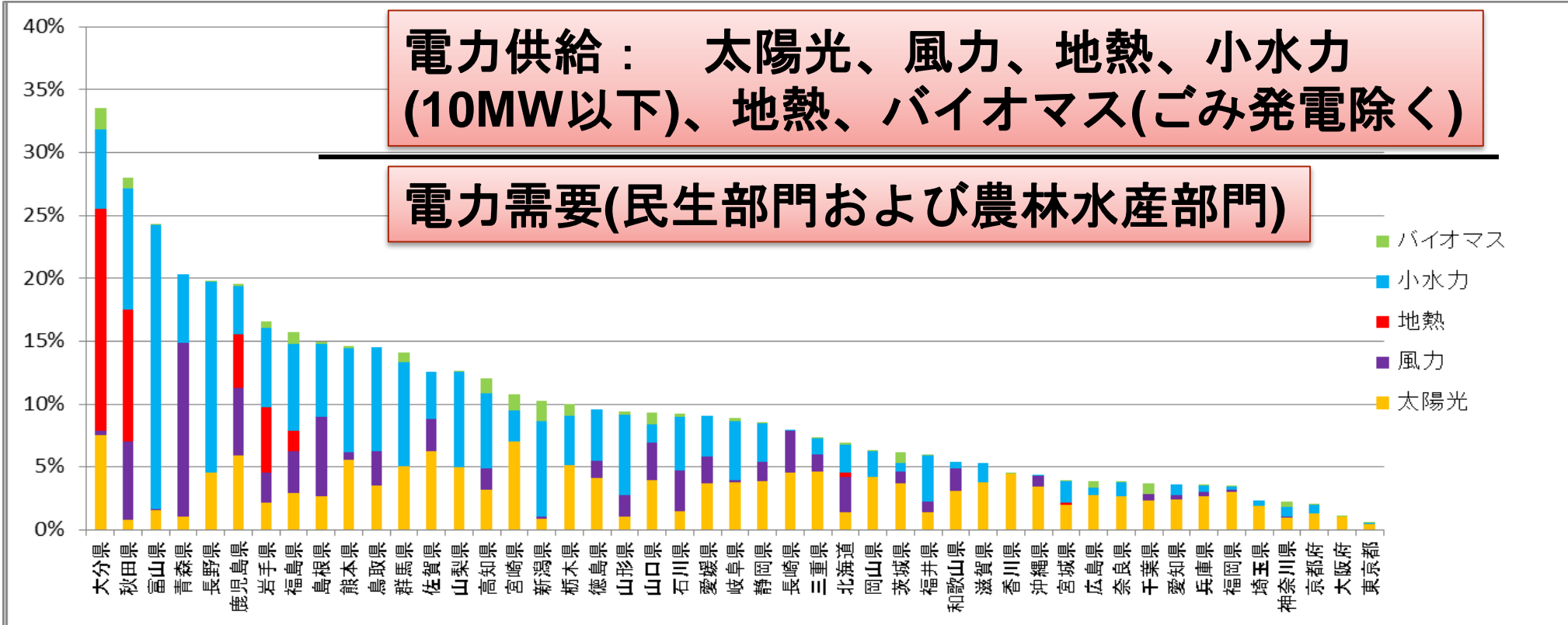
都道府県別の自然エネルギー電力の供給割合(2011年度～2013年度の実績を推計)

- 4県で再生可能エネルギー電力供給が域内の民生+農水用電力需要の20%を超えている。

自然エネルギー供給率(都道府県別:電力)

電力供給： 太陽光、風力、地熱、小水力
(10MW以下)、地熱、バイオマス(ごみ発電除く)

電力需要(民生部門および農林水産部門)



協力: 永続地帯研究会 <http://www.sustainable-zone.org>

永続地帯2014年度版報告書のリリース(2015年3月)

<http://www.isep.or.jp/library/7426>

❖ 固定価格買取制度の本来の意味を取り戻す

- 1) 事業用太陽光発電の「入札制度」は地域の事業者を閉め出す改悪
- 2) 買取義務者の変更は慎重に行うべき
- 3) 再生可能エネルギーの電力系統への「優先接続」を確立する
- 4) 再生可能エネルギー電力の「環境価値」（特にCO₂削減価値）を正しく反映させる

❖ 電力小売全面自由化を活かす

- 1) 情報開示のための発電源証明（GoO）の仕組みを整える
- 2) すべての小売電気事業者に電源構成表示を義務づけるべき（分かりやすく表示）
- 3) 原子力は「ゼロエミッション電源」ではない。原発の環境負荷（放射能汚染）を無視しない。

◇ 「いくらで買うか」から「何を買うか」の議論へ

事例 シェーナウ電力(EWS) 電源表示 あるべき姿

・ 自然エネルギー100%電力を販売

TUV Nord
エコ電力の認証



FIT制度
32.5%

それ以外の
再エネ
67.5%
(水力など)

Individuelle Stromkennzeichnung 2013

2013年の電源構成

- Atomenergie 原子力
- Kohle 石炭
- Erdgas 天然ガス
- sonstige fossile Energieträger
- Erneuerbare Energien
gefördert nach EEG
- sonstige Erneuerbare Energien

* davon 100 % Strom aus Neuanlagen



EWS-Strom



Bundes-
durchschnitt

電源	EWS-Strom	Bundes- durchschnitt
Atomenergie	0,0 %	16,6 %
Kohle	0,0 %	46,4 %
Erdgas	0,0 %	8,1 %
sonstige fossile Energieträger	0,0 %	3,0 %
Erneuerbare Energien gefördert nach EEG	32,5 %	21,9 %
sonstige Erneuerbare Energien	67,5 %*	4,0 %

シェーナウ

ドイツの平均

***新しい発電所からの自然エネルギー100%の電気**